

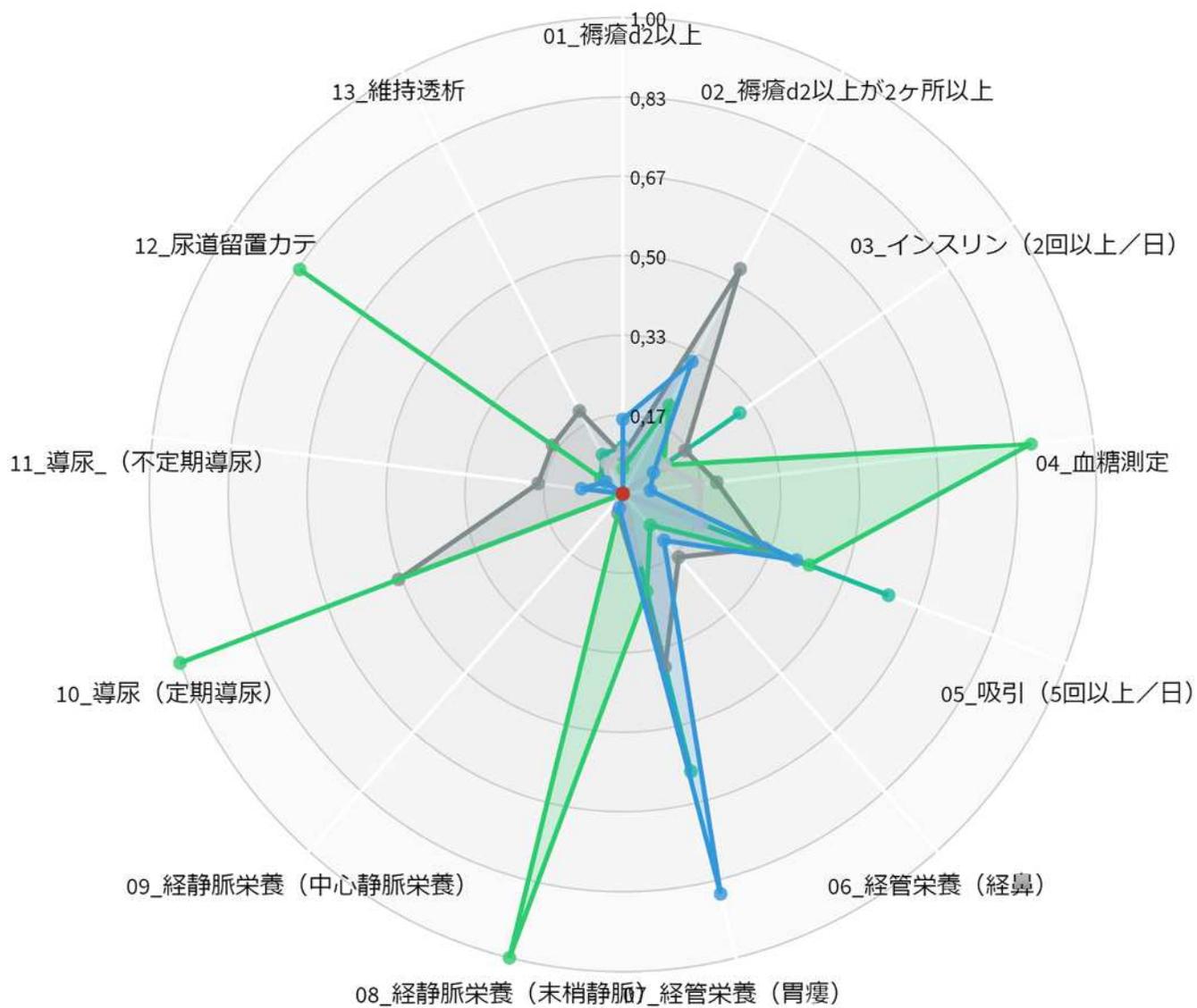
令和5年度地域医療構想の推進に向けた医療機能分化に関する調査結果（正誤表）

下記の通り、誤記がありましたので訂正いたします。

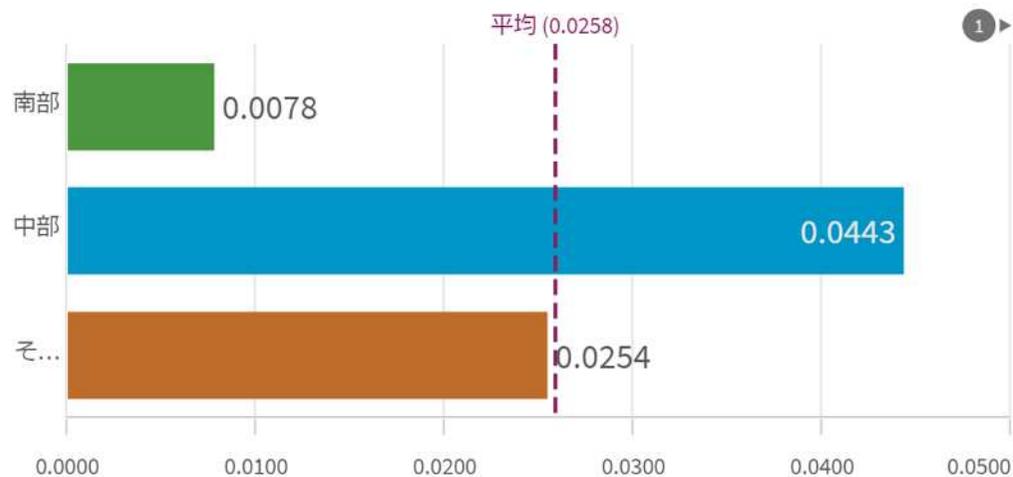
正誤箇所	誤	正
3.疾患の受入状況（主病名） 49～58 頁 文章	●●（疾患名）を主病名として入院した患者数の 1 病床あたりの平均値は	●●（疾患名）を主病名として入院した <u>患者数の平均値は</u>
4.疾患の受入状況（既往病名） 59-60 頁 タイトル	4. 疾患の受入状況（既往病名） ▶グラフ 4-1-1 既往病名構成（医療圏別）	4. 疾患の受入状況（ <u>入院時併存症名</u> ） ▶グラフ 4-1-1 <u>入院時併存症名構成</u> （医療圏別）
4.疾患の受入状況（既往病名） 62-69 頁 文章	●●（疾患名）を入院時併存症名として入院した患者数の 1 病床あたりの平均値は	●●（疾患名）を入院時併存症名として入院した <u>患者数の平均値は</u>
5.医療・介護的ケアの状況（1） 74-75 頁 下段スライド及び文章 （地域包括ケア病床）	<p>中部圏域では、以下の処置の割合が高い病院が存在した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経静脈栄養（抹消静脈）と導尿カテーテル（定期）が多い病院 ・経静脈栄養（中心静脈栄養）が多い病院 <p>すべての病院で、1つまたは複数の医療・介護的ケアを提供しており、病院により割合が高い医療・介護的ケアの組み合わせが異なっていた。</p> <p>DESIGN-R で d2 以上の褥瘡処置、経管栄養（経鼻）、導尿カテーテル（不定期）、維持透析が必要な患者の割合は低かった。</p>	<p>中部圏域では、以下の処置の割合が高い病院が存在した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経静脈栄養（抹消静脈）と導尿カテーテル（定期）が多い病院 <p>すべての病院で、1つまたは複数の医療・介護的ケアを提供しており、病院により割合が高い医療・介護的ケアの組み合わせが異なっていた。</p> <p>DESIGN-R で d2 以上の褥瘡処置、経管栄養（経鼻）、導尿カテーテル（不定期）、維持透析が必要な患者の割合は低かった。</p>
5.医療・介護的ケアの状況（1） 84 頁 下段スライド及び文章 （地域包括ケア病床）	<p>入院から 3 日以内に経静脈栄養（末梢静脈）が行われた患者数の 1 病床あたりの平均値は 0.0251 で、前年度の 0.0836 より低かった。</p> <p>中部圏域で 0.0427 と最も高く、南部圏域は 0.0078 と最も低かった。</p>	<p>入院から 3 日以内に経静脈栄養（末梢静脈）が行われた患者数の 1 病床あたりの平均値は <u>0.0258</u> で、前年度の 0.0836 より低かった。</p> <p>中部圏域で <u>0.043</u> と最も高く、南部圏域は 0.0078 と最も低かった。</p>

正誤箇所	誤	正
<p>5.医療・介護的ケアの状況(1) 85頁 下段スライド及び文章 (地域包括ケア病床)</p>	<p>入院から3日以内に経静脈栄養(中心静脈栄養)が行われた患者数の1病床あたりの平均値は0.0007で、前年度の0.0059より低かった。</p> <p>中部圏域で0.0016と最も高く、南部圏域とその他圏域は0であった。</p>	<p>入院から3日以内に経静脈栄養(中心静脈栄養)を行った病院は<u>0であった。</u></p>
<p>11.評価 125頁 3行目</p>	<p>【経静脈栄養(末梢静脈)】【経静脈栄養(中心静脈)】では、地域包括ケア病床の1病床あたりの患者数の平均値が、回復期リハビリテーション病棟の平均値を超えていた。【経静脈栄養(中心静脈)】の患者を受け入れる地域包括ケア病床は1つであった。</p>	<p>【経静脈栄養(末梢静脈)】では、地域包括ケア病床の1病床あたりの患者数の平均値が、回復期リハビリテーション病棟の平均値を超えていた。【経静脈栄養(中心静脈)】の患者を<u>受け入れた地域包括ケア病床はなかった。</u></p>

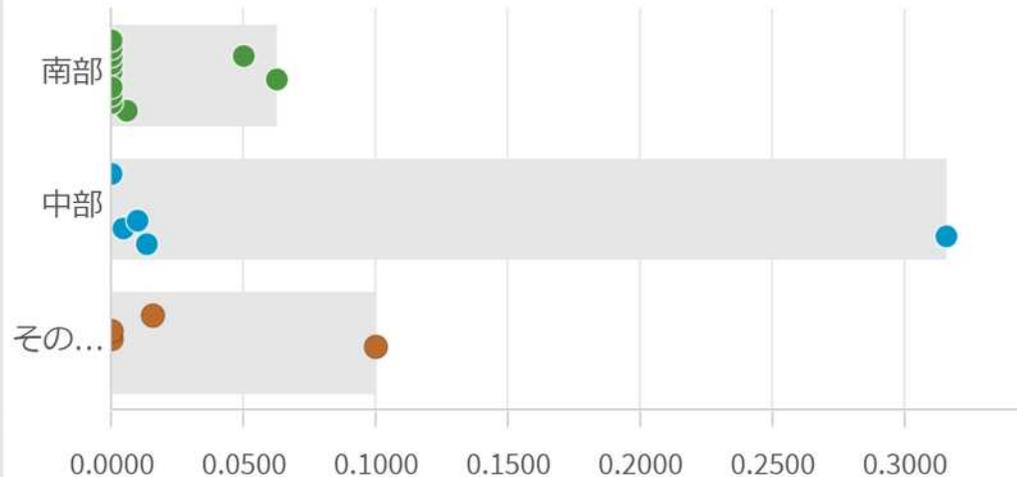
- 21病院
- 22病院
- 23病院
- 24病院
- 25病院



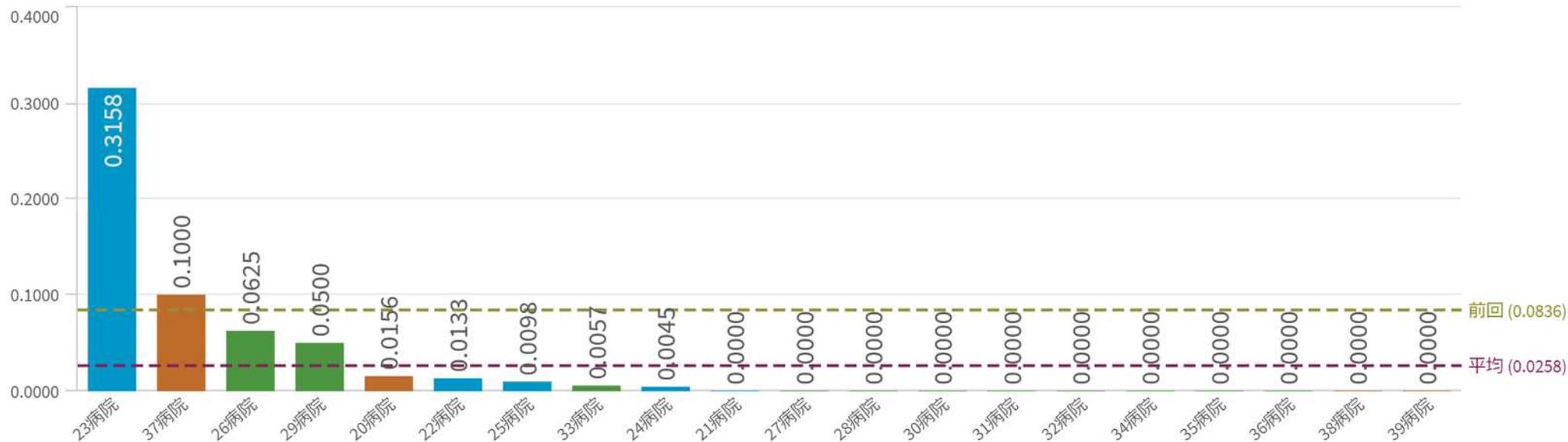
医療圏別平均



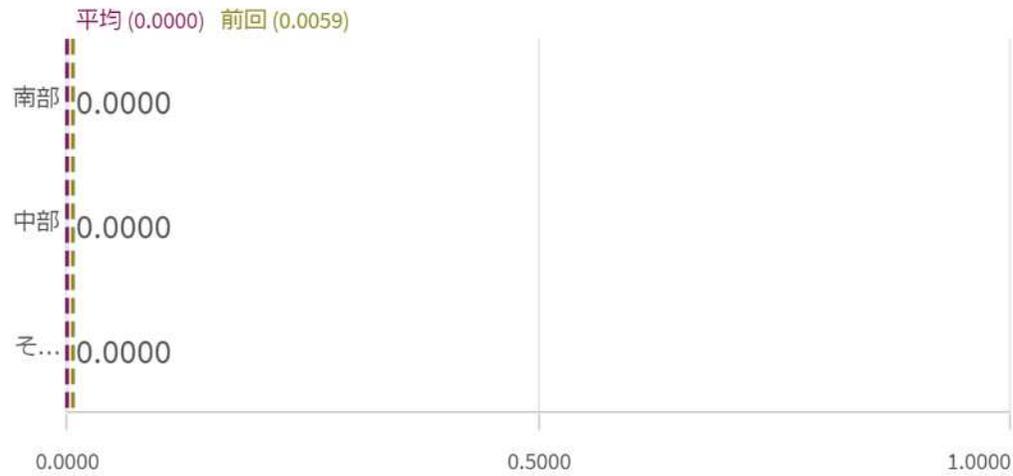
医療圏別医療機関ごとプロット図



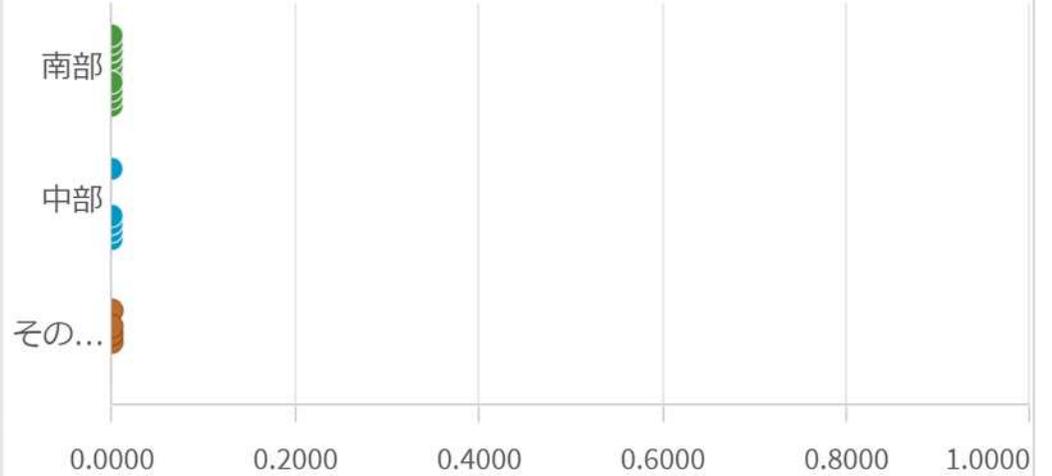
医療機関別



医療圏別平均



医療圏別医療機関ごとプロット図



医療機関別

